

平成 23 年 10 月 24 日
茨城県企画部統計課

茨城県消費者物価指数の基準改定について

茨城県では、標記指数について下記のとおり基準改定(平成 17 年基準から平成 22 年基準への移行)を行いましたのでお知らせいたします。

記

1 基準改定の概要

消費者物価指数は、私たちが日常生活に必要な一定の商品を購入した場合の価格の動きを、ある時点を基準にどれだけ値上がりまたは値下がりしたかを指数で表しています。しかし、世帯が日常生活で購入する商品は、新商品の出現や好みの変化によって時代とともに変わってきます。そこで、茨城県では国に準じて 5 年に 1 回「基準改定」を行い、調査する商品、サービス及びそのウエイト(後述参照)などを見直しています。

2 主な改定内容

(1) 調査商品(品目)の改定

追加：28 品目、廃止：19 品目、統合 15→4 品目、名称変更 42 品目

<主な追加品目>

紙おむつ(大人用)、ETC 車載器、ペット美容院代、音楽ダウンロード料 など

<主な廃止品目>

丸干しいわし、レンジ台、草履、速達、ステレオセット、フィルム など

(2) ウエイトの改定

調査している品目のなかには、よく購入するお米やキャベツ、にんじんなどの野菜や、たまにしか購入しない冷蔵庫、布団、ときどき利用する美容院(ヘアースタイル代)などさまざまな商品やサービスがあります。そこで、消費者物価指数を作成する際には、一般的な家庭が 1 年間に商品やサービスを購入するために支払った総額のうち、それぞれの商品やサービスに支払った金額の割合(ウエイト)を設定しています。

時代の変化に応じて私たちが購入する商品の頻度や量は変化しますので、その変化に応じて商品に設定するウエイトを見直しています。

平成 17 年基準と平成 22 年基準のウエイトの相違については、別紙 1「平成 17 年基準と平成 22 年基準のウエイト比較」をご参照ください。

3 平成 22 年基準と平成 17 年基準の茨城県消費者物価指数（総合）の比較

平成 22 年基準と平成 17 年基準とでは、前年同月比の上昇率で、平成 22 年基準の方が下落しております（表参照）。それは、値下がりした品目のウエイトが増えたり、値上がりした品目のウエイトが減ったりしたためです。詳細については、7 月分で分析いたしましたので、別紙 2「平成 22 年基準と平成 17 年基準の差▲0.7（平成 23 年 7 月・茨城県消費者物価指数（総合）の前年同月比）に影響を及ぼした主な品目」をご参照ください。

（表） 平成 22 年基準と平成 17 年基準の茨城県消費者物価指数（総合）の比較

	H22基準			H17基準		
	総合指数	上昇率（％）		総合指数	上昇率（％）	
		対前年 ・ 対前月	前年同月比		対前年 ・ 対前月	前年同月比
平成17年	100.1	-0.3	—	100.0	-0.3	—
18	100.6	0.5	—	100.5	0.5	—
19	100.6	0.0	—	100.5	0.0	—
20	102.1	1.5	—	102.0	1.5	—
21	100.5	-1.5	—	100.5	-1.5	—
22	100.0	-0.5	—	99.9	-0.5	—
平成23年1月	99.6	-0.2	-0.3	99.6	-0.2	0.0
2	99.5	-0.1	-0.4	99.4	-0.2	-0.2
3	99.6	0.1	-0.4	99.8	0.4	0.1
4	99.6	0.0	-0.6	99.8	0.0	0.0
5	99.4	-0.2	-1.1	99.9	0.1	-0.1
6	99.3	0.0	-0.8	99.9	0.0	0.0
7	99.4	0.1	-0.2	100.2	0.3	0.5
8	99.7	0.3	-0.2	—	—	—

別紙1

消費者物価指数 平成22年基準改定
平成17年基準と平成22年基準のウエイト比較

1 茨城県の10大費目別ウエイト（万分比）

万分比ウエイト	平成17年基準	平成22年基準
総合	10000	10000
食料	2502	2456
住居	2134	2193
光熱・水道	636	677
家具・家事用品	334	343
被服及び履物	456	389
保健医療	424	420
交通・通信	1402	1444
教育	365	354
教養娯楽	1163	1159
諸雑費	584	565

2 ウエイトの変動が大きかった主な品目

(1) エコポイント対象品目

万分比ウエイト	平成17年基準	平成22年基準
電気冷蔵庫	13	22
ルームエアコン	18	32
テレビ	45	87

(2) 公立高校授業料，私立高校授業料

万分比ウエイト	平成17年基準	平成22年基準
公立高校授業料	41	6
私立高校授業料	47	20

(3) たばこ

万分比ウエイト	平成17年基準	平成22年基準
たばこ	59	53

(4) 携帯電話通信料・携帯電話機

万分比ウエイト	平成17年基準	平成22年基準
携帯電話通信料	207	214
携帯電話機	5	53

別紙2

平成22年基準と平成17年基準の差▲0.7(平成23年7月・茨城県
消費者物価指数(総合)の前年同月比)に影響を及ぼした主な品目

1 テレビ

	前年同月比(%)	前年同月指数の比率	ウェイト(万分比)
22年基準	-30.0	95.5/99.6=0.9588	87
17年基準	-30.0	26.3/99.7=0.2638	45

22年基準は17年基準の約4倍(指数のリセット)

22年基準は17年基準の約2倍(エコポイント、地デジ)

⇒
⇒

寄与度
-0.25
-0.04

⇒

下落の寄与度が拡大
寄与度の差-0.21

2 たばこ(国産品)

	前年同月比(%)	前年同月指数の比率	ウェイト(万分比)
22年基準	39.2	91.1/99.6=0.9147	32
17年基準	39.0	109.4/99.7=1.0973	44

22年基準は17年基準の約0.8倍(指数のリセット)

22年基準は17年基準の約0.7倍

⇒
⇒

寄与度
0.11
0.19

⇒

下落の寄与度が縮小
寄与度の差-0.08

3 ビデオレコーダー

	前年同月比(%)	前年同月指数の比率	ウェイト(万分比)
22年基準	-30.9	98.1/99.6=0.9849	12
17年基準	-30.8	34.7/99.7=0.3480	14

22年基準は17年基準の約3倍(指数のリセット)

⇒
⇒

寄与度
-0.04
-0.01

⇒

下落の寄与度が拡大
寄与度の差-0.03

4 パソコン(ノート型)

	前年同月比(%)	前年同月指数の比率	ウェイト(万分比)
22年基準	-26.0	102.1/99.6=1.0251	21
17年基準	-28.2	13.1/99.7=0.1314	19

22年基準は17年基準の約8倍(指数のリセット)

⇒
⇒

寄与度
-0.055
-0.007

⇒

下落の寄与度が拡大
寄与度の差-0.048

5 灯油

	前年同月比(%)	前年同月指数の比率	ウェイト(万分比)
22年基準	20.4	102.5/99.6=1.0291	34
17年基準	21.2	145.6/99.7=1.4604	43

22年基準は17年基準の約0.7倍(指数のリセット)

22年基準は17年基準の約0.8倍

⇒
⇒

寄与度
0.07
0.14

⇒

下落の寄与度が縮小
寄与度の差-0.07

(寄与度の計算式)

$$\text{品目Aの総合指数の前年同月比に対する寄与度} = \text{Aの前年同月比} \times \frac{\text{Aの前年同月指数}}{\text{総合の前年同月指数}} \times \frac{\text{Aのウェイト}}{\text{総合のウェイト}}$$